

伝統芸能の継承・発展と発信について

背景

- 伝統芸能は、長い歴史の中で、外来の文化と融合しつつ、我が国固有の芸能として発展
 - 明治以降、西洋文化を積極的に導入する政策の推進により、伝統文化・芸能教育が軽視
 - 戦後の諸外国文化の大量流入による我が国の芸術文化の多様化の進行
- 伝統芸能の継承、発展が危惧される状況

基本的考え方

- 近世に江戸で開花した伝統芸能は、江戸・東京を象徴する芸術であり、東京の芸術文化を世界に発信していく上でも重要な資源
- 観客や実演家、公演会場の減少などの現状を踏まえた対策が必要
- 都は、伝承者育成などの国の取組を踏まえ、観客離れを抑止する観点から、新たな取組を展開することにより、伝統芸能の継承・発展と発信を図っていくべき

施策の方向性

- 日本の伝統を、保持し普及していくための基盤づくり
日本の伝統を素養として身に付けるとともに、伝統芸能を広く普及するための社会的な基盤づくりが必要

- 伝統芸能の新たな魅力の創造・発信
伝統芸能を継承し、将来に向けて発展させていくためには、新たな観客層を掘り起こし、さらに魅力を向上させていくことが必要

(現在の事業)
「キッズ伝統芸能体験」など、成長過程における体験型事業を実施

- (今後の取組例)
- ・ 高校生及び大学生を重点においた教育的アプローチ
 - ・ 国際学部などの学生に対する伝統芸能文化の知識の付与と海外発信

(現在の事業)
「東京発・伝統WA感動」などの事業で、伝統的な公演を実施

- (今後の取組例)
- ・ 外国人観光客や初心者が気軽に楽しめるプログラムなどの開発
 - ・ 日本舞踊とクラシック音楽、文楽と映像などの新たな融合
 - ・ 「江戸・東京ブランド」として伝統芸能を海外プロモーションに組込

伝統芸能の魅力を高める拠点としての「場」の検討

- ・ 公演情報の一元的な提供など、わかりやすい伝統芸能情報の発信
- ・ 能楽堂など、都内文化施設との連携や、江戸東京博物館の活用